

「死にたい」にどう対応するか —ソーシャルワーカーのための自殺の危機介入研修—

対象：援助機関に従事する精神保健福祉士・社会福祉士の方。

（または来年から都内の援助機関で従事する見込みの方・学生可）

講師：NPO法人OVA代表理事／精神保健福祉士 伊藤次郎（プロフィールは裏面に記載）

◆プログラム◆※こちらは短縮版です。通常は180分での実施を推奨しております。

時間	内容
30分	【講義1】「臨床に生かすための自殺の統計と現状」 <ul style="list-style-type: none"> ・自殺に関する統計的データ（疫学的事実） ・年間自殺者数／自殺率／自殺致死率と性別／自殺未遂率の性差／ ・自殺と年齢・職業・曜日・配偶者・遺書の有無／国際比較等
30分	【講義2】「自殺のリスクアセスメント」 <ul style="list-style-type: none"> ・自殺の危険因子と偽陽性について ・メディアと自殺（若者の自殺とウェルテル効果について） ・自殺の対人関係理論・自殺の危険性を本人から聞き出すポイント
60分	【講義3】「自殺の危機にある人にかかわるか」 <ul style="list-style-type: none"> ・自殺に追いつめられる心理（心理的視野狭窄／アンビバレント等） ・支援者の心理と自殺に関する信念／支援者の逆転移 ・介入方法（ポイント） ・チームによる支援／バーンアウトの予防 ・事例検討

* プログラム内容は一部変更になる場合があります

◎日本の自殺の現状把握から、臨床上で必要不可欠な自殺のリスクアセスメント、自殺危機にある人へのかかわりの指針を得られる120分のパッケージとなっている。

◎自殺予防・自殺の危機介入に関する実証的データと臨床経験に基づいた研修内容である。

◆講師

伊藤次郎(Jiro Ito)

NPO法人OVA(オーヴァ)代表理事。精神保健福祉士。

江戸川区自殺未遂者支援会議スーパーバイザー(平成27年～現在)
新宿区自殺対策会議若者支援対策専門部会委員(平成26年～現在)
若者自殺対策全国ネットワーク 発起人／共同代表
日本財団「ソーシャル・イノベーター」選出(2016)



学習院大学法学科卒業。EAPプロバイダーを経て、精神保健福祉士・産業カウンセラーなどの資格取得後、精神科クリニックにて復職支援(リワーク)に従事した。

2013年6月末にマーケティングの手法で自殺ハイリスクの若者にリーチしようと、「インターネット・ゲートキーパー」の手法を開発・実施し、NPO法人OVAを設立した。

この手法は世界的に前例がなく、パートナーである末木新氏(和光大学)によって、「WHO世界自殺レポート会議及び関連行事(2013)」で活動が紹介された。

講習・研修は、今まで、アジュ大学公共政策大学院(韓国水原市自殺予防センター)、東京大学大学院、明治大学大学院、北海道立精神保健福祉センター、東京都、栃木県、武蔵野市、江戸川区などの教育機関・行政機関やその他民間企業で行っている。

朝日新聞「ひと」、NHK「ハートネットTV」などメディア掲載多数。

<論文・MISC>

- ・伊藤次郎(2016)
インターネット・ゲートキーパーの現場から『こころの科学』(日本評論社)Vol. 186
- ・Sueki, H., & Ito, J. (2015)
Suicide prevention through online gatekeeping using search advertising techniques: A feasibility study. Crisis 36(4), 267-273.
(「Crisis」はWHOと公式パートナーシップである国際自殺予防学会が発行)
- ・末木新・伊藤次郎(2015).
インターネットを使った自殺予防: ゲートキーパー活動におけるリアルとネットの融合
最新精神医学, 20(3), 213-219.
- ・末木新・伊藤次郎(2015).
インターネットを用いた自殺予防の試み: 夜回り2.0における援助事例
精神科治療学, 30(4), 505-509.
- ・末木新・伊藤次郎(2016).
インターネットを用いた自殺予防の課題: 夜回り2.0における援助事例をもとに
臨床精神医学, 45(10), 1253-1258.
- ・末木新・伊藤次郎(2017)
電話・メール対応が難しいクライアントにどう対応するのか?
—面接以前の面接. 臨床心理学. 第17巻第1号